

九州保健福祉大学の学生と延岡の当事者による
「ふれあい散策フォト」
学生の感想レポート

「当事者の方たちと活動して学んだこと・感じたこと」 M・K

今回、私は当事者の方たちとカメラを持って延岡の街を歩きながら写真を撮るというワークに参加させていただきました。

このワークを通して私が学んだこと・感じたことは2つあります。

1つめは、「一人ひとりの視点の違い」です。写真を撮り終わり、最後にみんなで見ながら写真を見た際に同じ道を通っていたにも関わらず、同じ写真が一枚もありませんでした。同じ場所を撮っていても、一人の人は花を撮っていたり、もう一人の人は建物を撮っていたりと様々でした。撮っているものも、花が多い人、建物が多い人、人が多い人などそれぞれの価値観や好きなものが写真にはよく表れているな、と感じました。これから精神保健福祉士や社会福祉士になる上でこの「視点の違い」は大事にしていきたいと思いました。他職種・他機関との連携、クライアントとの関わりの中で、自分の視点や価値観だけが正しいと思うのではなく、一人ひとりの様々な視点や価値観からクライアントの最善の利益を追求することが大切なのではないかと思います。

2つめは、「当事者の方たちとのコミュニケーション」です。私は、とても人見知りで最初の方はなかなか当事者の方たちとコミュニケーションを取ることができませんでした。他の人はみんな積極的に話していて、自分だけ喋ることができない状況がとても辛かったです。だけど途中から当事者の方と思わず声をかけてみようと思い、親戚のおじちゃんやおばちゃんと話すように話しかけると自然にコミュニケーションを取ることができました。自分からコミュニケーションを取ることができたのは大きな一歩だと思います。精神保健福祉実習や現場に出ても、この一歩を忘れることなく患者様や当事者の方たちとコミュニケーションを取っていききたいと思います。

今回のワークに参加して上記の2つだけでなく多くのことを学び、感じることができました。街を歩きながら写真を撮るという同じ作業をすることで同じ目線で楽しむことができ、とても充実した時間でした。これからもこのように当事者の方たちと関わりあえる機会があれば積極的に参加していきたいと思えます。

「写真撮影会感想」 Y・Y

最近、気分がだるい状態が続いていたので、撮影会という活動そのものがとても良いリフレッシュになった。リフレッシュにはなったが当事者の方々と関わる機会であったのに自分の気分転換に重点を置いた活動になってしまった。それでも、写真を撮っている中で自然と当事者の方々と話のできたので、何かを一緒に行うということはお互いのことを知ることのできる素晴らしいことだと思った。私は普段は暗くなってからしか散歩をしないので明るい時間帯の延岡を知る良い機会であった。一人ずつの写真を見ていった際には、興味を引くものが一人ひとり全然違うということをととても実感した。その人の撮った写真を見ることにより、多くの言葉を使わずともその人の特徴が見えてくるので、写真にはその人の感性を代弁する力があるのだなと感じた。何人かの人と話せなかったのは自分としてはとても心残りである。撮影会が終わってから学生3人と当事者の方1人でご飯を食べに行った。当事者の方とご飯を食べに行くことが初めての機会だったので少し新鮮な気持ちだった。撮影会に参加しなければこの機会は得られなかった。普段の生活では、なかなか経験できないことばかりだったので、とてもいい経験になった。お忙しい中このような学生が参加できる活動を開いていただきありがとうございます。

「ふれあい散策フォト」に参加して A・K

とびらの利用者様と一緒に写真撮影に参加させて頂いて、まずは本当に楽しかった。普段は通らない道をゆっくりと歩くことで、とても気持ちがよかったし、こんなのあったんだという発見がいくつもあって面白かった。写真は、興味をひかれたものを撮影するので、利用者様はこれに興味があるんだな、好きなんだろうなと、初めてお会いしたばかりの方だけど少しだけその方の理解に繋がった。お話をするときも、例えばお花を多く撮影している方には「お花が好きなんですか？」など、話題を振りやすく、撮影したものがお話のきっかけになって、話題を振るのが苦手な自分はとても助かった。しかし、撮影に夢中になりすぎて一度もお話しできなかった利用者様もいたので、もっと周りを見て、いろいろな方とお話をする機会を持てたらよかったなとすごく感じた。次にこのような機会があるときは、積極的に参加をしたいと思う。また、参加させて頂くときは、特定の方ばかりではなく、参加されているたくさんの方とお話できるようにしたい。

「ふれあい散策フォト」に参加して A・S

高校生の頃、通学路にしょうがい者そうだん室とびらがあり、その前を毎日通りながら、ここはどんなことをする場所なのだろうと考えておりました。九州保健福祉大学に入学して精神保健福祉関連の勉強を行う中で、とびらの活動の概要を知ったり、小川さんの講話を聞いたりすることができ、今日皆さんとの写真撮影会や交流をととても楽しみにしておりました。私は写真撮影会を通して、私は様々なことを学んだり感じたりすることができました。まず、朝の集合の時に緊張して固まっていた私たちに、当事者の方が共通の話題で話しかけてくださり、そのおかげですぐに緊張もほぐれました。その事から、コミュニケーションは受け身になるのではなく、積極的に自分から話しかけるという事の大事さを学び、それから気を付けて交流を行うことができました。次に、外に出て公園に入った時、楽しそうに話している人や夢中でシャッターを切る人等、皆それぞれの行動をとっているのを見て、人間の行動や関心、気持ちは十人十色だと学び、そして一人ひとりが生き生きしているように感じました。帰ってきた後の写真鑑賞会の時にも、一人ひとりの物の見方や感性の違いがわかり、更に一番のお気に入りの写真への思いを聞くことで、よりその人の関心を知ることができました。写真を通してコミュニケーションを行うことで、普通に会話を行うよりも会話が増え、より相手のことを知ることができるとことを知りました。半日の間ではありましたが、当事者の方々との交流でとても大事な事を学び、実りの多い一日にすることができました。今日のことをこれからの実習や学びに生かしていきたいと思えます。しょうがい者そうだん室とびらの皆様、ありがとうございました。

「ふれあい散策フォト」に参加して M・Y

今回の撮影会とはとびらの皆さんに最初はどう話しかけていいのか迷ってしまい戸惑っていましたが、何人もの人に話しかけていただき楽しい時間を過ごせたと思えます。これまで高齢者分野に浸っていた私には、とびらの皆さんとの交流は新鮮なものでした。時間が経つたびにわかってきたことがあります。それは自分が楽しんでこそ自然なコミュニケーションが取れるということです。

とびらに来ていた他の人たちも特別何かするでもなく、おもいおもいに写真撮影を楽しんでいました。私自身緊張が取れてきてからの方が、話しかけたり話しかけられたりしていたと思えます。

支援者側の対応としてさすがだと思ったのは、最後尾にいた人や歩き疲れた人と日陰で一緒に休んでいたことです。私自身は先頭集団で先にどんどん行ってしまったので、疲れている人に気づくことができませんでした。自分も楽しむことと周りに気を配るのを両方同時に行わなければならないと学べました。